

白鷹町認知症高齢者見守りネットワーク

見守り 支え合い

お年寄りが地域で安心・安全に暮らせるよう応援します

介護ワンポイントアドバイス
地域包括支援センターTel.86-0112

**大切な家族に認知症の症状が見られたら
『専門医の受診や』物忘れ相談』へ**

年をとっても元気に生活していた家族が、来客や伝言を忘れたり、鍋などを焦がしてしまったり... あれ?と思う言動が増えてきたとき、あなたはどうしますか?

ある程度の年齢になると、どうしても物忘れをすることが増えてきます。しかし、加齢による物忘れと『認知症』による物忘れとは、大きな違いがあります。

生活に支障が出やすい『認知症』による物忘れ

加齢による物忘れは、スーパーであいさつされた相手の名前が思い出せなかったり、出かけた先で家に財布を忘れたことに気づいたりなど、物事の一部を忘れてしまうことが多く、そのほとんどは後で思い出すことができます。

それに比べて、『認知症』による物忘れは、その人の性格が変わってきたり、不自然な行動をとってしまったり、場合によってはその人の生活に支障が生じることがあります。ですが、『認知症』による物

忘れは、専門医の治療や服薬で症状を改善させることができます。ですから、早いうちに気づき、早いうちに受診し治療を始めましょう。

以前と変わって左記のような言動が増えてきた場合は、精神科や物忘れ外来などの専門医などに相談することが必要です。受診のことでお困りのことがありましたら、町地域包括支援センターへご相談ください。また、年6回開催予定の『物忘れ相談』もご利用いただけます。

■問い合わせ
地域包括支援センター
(☎86-0112)

認知症チェックリスト

- これらのことに、あてはまることはありませんか?
- ささいなことで怒りっぽくなり、家族や親しい人の言葉を悪く受けとってしまう。
 - 自分の失敗を認めず、人のせいにするようになった。
 - 自宅に居ても「家に帰る」と言ったり、夜中に食事を摂ろうとしたりするなど、時間や場所がわからなくなる。
 - 冷蔵庫に入れるものを食器棚にしまったり、料理の手順がわからなくなったり、運転ミスが多くなるなど、判断力・推理力が低下する。
 - 趣味だった庭仕事や料理などをしなくなったり、楽しみに見ていたテレビ番組に興味を示さなくなるなど、意欲がなくなり無気力になる。

認知症の人と家族の会定例会

- ▼いつ 4月27日(水)午後1時30分～
- ▼どこで 健康福祉センター
- 問い合わせ 町地域包括支援センター (☎86-0112)

広報直通便



Q 観光パンフレットに工夫・新鮮味を!

高橋邦男さん(さいたま市)

町のPRパンフレットについては、余白を上手に利用し、メインイベントなどを行う期間・期日、町名などが分かりやすい位置に印刷されるよう工夫してほしいと思います。

さらに、県外者は、白鷹を「ハクタカ」と読む人が多いようなので、漢字にはふりがなを付けた方が良くと思います。

サテライトオフィスで9年間お手伝いしていますので、パンフレットにも新鮮味を加えてください。

A 回答(産業振興課観光交流係)

高橋様には、白鷹サテライトオフィス開設以来9年の長きに渡り、首都圏と町内産業

との受注拡大などの橋渡し役として活躍いただきましたこと、深く感謝申し上げます。

総合観光パンフレットにつきましては、平成13年に構想した観光4シーズン化を推進するため作成し、部分的な修正を行いながら使用してまいりました。初版作成からかなりの年月が経過したことから平成22年度事業として白鷹町観光協会に委託し、新たなポスター・パンフレットの作成に取り組んでまいりましたが、先の地震で編集業者が被災し、校正・印刷の作業に遅延を来たしておるところです。

新たなパンフレットにつきましては、ご指摘いただいた点に十分配慮し、全国のかたに「しらたか」の魅力をアピールできるものとしてまいります。貴重なご提案ありがとうございます。ありがとうございました。

ご勇退後も、引き続き首都圏に住まわれていた目線からのご指導いただけますよう、よろしくお願いいたします。

■広報直通便への問い合わせ
総務課情報係
(☎85-6121)